



最大の慶事 507名が参加して盛大に開催

社団法人設立 50 周年 (創立 88 年・協同組合設立 19 年) 記念式典・祝賀会

12 月 7 日 (日) 午前 11 時から午後 3 時まで、ウェスティンゴヤキャッスルにおいて、151 名の来賓をお迎えし、356 名の会員が参加して本会社団法人設立 50 周年 (創立 88 年、協同組合設立 19 年) 記念式典・祝賀会が盛大に開催された。



期せずして衆議院が解散し、選挙戦の真っ只中で関係来賓者にとっても運営側の役員・担当者にとっても慌ただしい式典・祝賀会となったが、大きな混乱もなくスケジュール通りに進み、新体制の執行部となって初めての最大の事業は成功裡に終了した。全国社団会長はじめ多くの来賓から、「立派な式典だった」とお褒めの言葉を頂いた。



堀江美穂さん

■ 式典は青雲の間にて厳かに行われ、ZIP-FM ミュージックナビゲーターの堀江美穂さんと山本正大総務部員の司会進行のもと、午前 11 時から長谷川副会長の開式の辞にて開始。

森川会長は式辞のなかで、来賓へのお礼のあと、柔整業界や本会の歴史や現状を詳しく紹介するとともに、米田一平先生をはじめとする先人たちの功労に謝意を述べた。さらに「この厳しい環境の中で柔道整復師が医療

の一端を担い国民の健康増進・福祉向上に邁進できるような体制の構築は、本会の会員でなければ成し得ないと確信しています。日整・工藤鉄男会長の指導のもと、我が国のかげがえのない伝統医療である柔道整復術を護り育んでいくとともに、自助努力こそが最大の務めであることを心に深く刻み精進努力していくことをお誓い申し上げます」と力強く述べた。

続いて大村秀章県知事、藤澤勝博愛知労働局長・江崎鐵磨前衆議院議員 (顧問)・藤川政人参議院議員 (顧問)・柵木充明県医師会長 (代理・山本 楯副会長)・工藤鉄男日整会長からご祝辞を頂戴した。

今回 50 年の区切りとして、先代からの長年のご尽力に対する感謝の気持ちをこめて、初めて特別感謝状を本会より米田 實先生にお贈りした。また柔道などで功労のあった 4 名に特別功労会員表彰も行われた。



森川会長 式辞



米田 實先生に特別感謝状を授与

特別感謝状 感謝状	特定医療法人米田病院理事長・院長 米田 實先生 愛知県知事/名古屋市長/愛知労働局長/日本福祉大学社会福祉総合研修センターより
日整会長表彰	会長表彰 1 名/日整永年業務精励会員 10 名
本会会長表彰	長寿会員 4 名/喜寿会員 9 名/永年勤続役員 2 名/特別功労会員 4 名/永年業務精励会員 125 名/学術功労会員 5 名/柔道功労会員 25 名/優良会員 10 名/職員感謝状 2 名

すべての表彰を終えたあと、受賞者全員起立のうえ、受賞者代表として紙谷健生会員 (中村) が謝辞を述べた。

記念事業では、中日新聞社会事業団と日本赤十字社愛知県支部に対して、それぞれ 50 万円・30 万円を寄付し目録を贈呈した。

最後に藤川副会長が閉式の辞を述べ、定刻の 12 時 30 分に終了した。

■ 祝賀会は名古屋城が正面に眺望できる天守の間に場所を移し、12 時 45 分から開催された。

来賓入場後、「愛知県柔道整復師会「50 年の歩み」と題し、映像が正面の 3 面のスクリーンに投射された。

司会進行を ZIP-FM の堀江美穂さんと河合一弘支部長 (事業部員) が務め、藤川副会長の開会の辞にて祝宴が華やかに始まった。

冒頭森川会長は、国民の健康維持のため真面目に施術を行なっている日整会員の 50% 近くが 500 万円以下の収入しかない窮状を訴え、関係



芝 千桜さんの祝舞

来賓者に現状への理解と支援、協力を求めた。

来賓祝辞、来賓紹介に続き、西川流師範 西川允喜幸・事 二代目家元 芝 千桜さん (森川会長の奥様) による「長唄島の千歳」の流麗な祝舞が行われ、木山時雨日整副会長の音頭による乾杯の後、祝宴に入った。

役員や会員は来賓に日頃の感謝と出席のお礼を含め、また会員同士は親睦を深めるために各テーブルを回り、楽しいひと時を過ごした。

午後 3 時、萩原正和日整副会長が中締めを行ない、勧めにより本会役員全員が壇上上がり万歳三唱を行なった。その後長谷川副会長の閉会の辞にて 50 年に一度の大きな慶事が滞りなく盛会のうちに幕を閉じた。



萩原日整副会長と役員全員で中締めの万歳三唱

日本柔道整復接骨医学会学術大会に26会員が出席

11 月 29 日 (土)・30 日 (日)、東京都大田区産業プラザ PiO にて、第 23 回日本柔道整復接骨医学会学術大会が盛大に開催された。

本会からは森川会長はじめ 26 名の会員が出席し、A から F とポスター発表の 7 つの会場を回って熱心に聴講した。

今回は本会からの直接の発表者はなかったが、三谷 誉会員 (一宮) による日整保険部介護対策課からの口頭発表をはじめ、所属施設からの発表など本会会員数名の発表者があった。

今回の大会テーマである『『みる』(視・観・診・看)を探る]に沿って、沖永寛子学会会長 (帝京大学学長) により、「内科の立場から「みる」(視・観・診・看)を考える」と題して大会会長講演が行われた。ご専門の内分秘疾患の代表例をいくつか紹介し、4 つの「みる」の大切さを述べられた。また、シンポジウムでも「柔道整復業務の「みる」を探る」をテーマに、理学療法士や鍼灸師、アスレティックトレーナー、ケマネージャーなどそれぞれの立場からの発表が行われた。

特別講演では医学会副会長の米田忠正先生が座長を務め、栗原友介先生 (栗原整形外科) により「高齢者の急性腰背部痛に対する有効な体幹ギプスの巻き方」が紹介された。さらには画像解析や社会医療、物理療法など 7 つの分科委員会フォーラムで合わせて 19 の発表や講演が行われ、大盛況で立ち見の出る会場もあった。

口頭発表は、病態把握や画像解析、固定法など多くの分野で合わせて 140 題以上に上り、ポスター発表も 80 題以上行われた。

会場入り口にて

長谷川副会長
藤川副会長
森川会長
学術部部長

